

教育学部

教育学研究科(大学院)



2023

目 次

学部長・研究科長あいさつ、 専門職学位課程統括長あいさつ	2
---------------------------------	---

【教育学部】

取得できる教員免許状	3
小中一貫教育コース (小学校主免専攻) (中学校主免専攻)	4～5
教職実践基礎コース	6
発達支援教育コース (子ども理解専攻) (特別支援教育専攻)	7～8
教育学部ディプロマポリシー	9～11
留学体験記	12

【教育学研究科】

教職実践開発専攻 (教職大学院)〔専門職学位課程〕	13～14
------------------------------	-------

【附属施設】

附属教育協働開発センター	15
附属幼稚園	15
附属小学校	16
附属中学校	16
特別支援学級	16
宮崎大学までの交通機関・施設位置図	17

学部長・研究科長あいさつ



教育学部長
教育学研究科長 藤井 良宜

力を入れております。学生定員 120 名の小さな学部ですが、中学校・高等学校のさまざまな教科の教員を養成しているため、教育学部にはいろいろな専門分野を持つ教員が所属している点が特徴の一つです。専門が違えば考え方もいろいろで、さまざまな考え方を学ぶことができる本当に面白い学部です。将来教員になりたい、と考えている皆さん、ぜひ宮崎大学教育学部と教育学研究科に来てください。

また、これからは、学生の教育だけでなく、卒業後の教師のスキルアップや地域の教育の向上にも取り組んでいくことも教育学部の使命と考えております。現在、教育学部と教育学研究科では、宮崎県内の市町村や教育委員会、商工会議所などと連携を進めています。本学の教員のそれぞれの専門知識を活かしながら、教育を通して地域社会への貢献にも取り組んでいきたいと考えております。

専門職学位課程統括長あいさつ

宮崎大学大学院教育学研究科では、平成20(2008)年度に専門職学位課程(教職大学院)を設置し、現代の教育課題の解決に向けて教育理論に基づく高度の教育実践力を身につけた人材の養成に取り組み、約10年の間に学校や教育行政の現場で活躍する人材を輩出してきました。令和2(2020)年度には、教職実践高度化コース、教科領域指導力高度化コース、特別支援教育コースという3つのコースで構成される新しい教職大学院として再スタートし、教職としての高度な理論と教育実践力に加えて同僚教師や地域等との協働に必要な資質・能力を備えた人材育成を目指しています。

教師に求められる資質・能力の1つに「学び続ける姿勢」があります。Society5.0の到来とともに、学校教育においてもタブレット端末やパソコンを活用した学び方が広がり始めています。遠く離れた人々とオンラインでコミュニケーションをとったり、多様なデータベースにアクセスしたりしながら学ぶことで、子どもたちの世界は確実に広がっていきます。その一方で、従来からの直接的な関わりや体験を通した学び方の大切さも再認識されていくでしょう。今後はオンサイトとオンラインそれぞれの学習効果を検証しながら新しい学びが創造され、子どもたちが大人になった頃には、学びや生活のスタイルに大きな変革が起きていることでしょう。

そんな未来を生きる子どもたちを育む教師には、子どもたちの今を見るだけでなく、彼らの未来を想像しながら、自分自身をバージョンアップして時代の変化に対応した教育を展開し続けていくことが求められます。ぜひ、本研究科で確かな理論に基づいた実践力を磨き、様々な変化に対応できる柔軟性や応用力を養い、魅力的な学校づくりを担う一員を目指して、共に学びを深めていきましょう。



専門職学位課程統括長 戸ヶ崎 泰子

教育学部 Faculty of Education

多様な学びを通じて、社会に貢献できる教員を目指そう

教育学部は、現代の様々な教育課題に対応でき、子どもたちの成長をしっかりと支え続け、新しい時代を切り拓く、小学校・中学校・小中一貫校・幼稚園・特別支援学校等の教員を養成します。本学部では、コース毎にカリキュラムが組まれ、学校現場に関わる諸問題や児童・生徒の心身の諸問題、各教科の内容を専門的に学びます。また、それと共に介護体験実習、教育実習といった、教員に必要とされる、より実践的な教職科目も学習します。

取得できる教員免許状

免許状 課程・コース等			小学校教諭 普通免許状	中学校教諭 普通免許状	高等学校 教諭普通 免許状	特別支援 学校教諭 普通免許状	幼稚園教諭 普通免許状
学 校 教 育 課 程	小中一貫 教育コース	小学校主免専攻	1 種	2 種 1 種	1 種☆	2 種	2 種又は 1 種
		中学校主免専攻	2 種 1 種	1 種	1 種☆	2 種	2 種
	教職実践 基礎コース	教職実践 基礎専攻	1 種	2 種又は 1 種	1 種☆	2 種	2 種又は 1 種
	発達支援 教育コース	子ども理解専攻	1 種	2 種		2 種	1 種
		特別支援 教育専攻	1 種	2 種		1 種	2 種又は 1 種

備 考

- 太字**は卒業時に取得できる免許、細字は時間割等の条件が合えば努力次第で取得できる可能性のある免許の例。
なお、☆の高校「地理歴史」、「公民」、「工業」については、指定された単位の修得が必要。
- 学校教育課程で取得できる中学校及び高等学校の免許教科は次のとおり。
中学校：国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・技術・家庭・英語
高等学校：国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽・美術・保健体育・工業・家庭・英語
- 本学で取得できる特別支援学校の免許の領域は、知的障害・肢体不自由・病弱の3領域。
聴覚障害・視覚障害の領域については、取得できない。
- 学芸員の資格：所定の単位を修得し、申請すれば「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付される。
- 学校図書館司書教諭の資格：大学で開催の講習単位を修得すれば「修了証書」が交付される。

小中一貫教育コース

〔小学校主免専攻〕〔中学校主免専攻〕

本コースは、小学校・中学校教員・小中一貫教育校の教員養成を目指すコースです。児童・生徒の9年間の発達を踏まえ、それぞれの段階に柔軟に対応できる支援・指導力と教科の専門性とを兼ね備え、小・中学校教育の連携が構想・実践できる教員を目指します。小学校教諭と中学校教諭の両方の免許状が取得できる、時代の要請に対応したコースです。

●アドミッションポリシー

本コースでは、次のような人を求めています。

1. 小学校・中学校・小中一貫校の教員等を目指す教職への意欲にあふれ、教職に必要なたしか知識・技能について研鑽^{さん}を積み続けられる人
2. 教育課題を解決するために必要な思考力及び児童・生徒への適確な指導に資する表現力、学校現場で生きる協調性を持ち、それらをしっかりと身に付けるべく一層の努力を怠らない人

●卒業後の主な進路

小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、特別支援学校教諭、幼稚園教諭、保育士、大学院進学他



〔小学校主免専攻〕

定員55人



学校教育の入り口となる初等教育は、次世代を担う子どもたちを育む意味でたいへん重要です。

本専攻は小学校教員としての基本的な資質を高め、同時に10の専修（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語）からなる得意分野を併せ持つ専門性の高い小学校教員の養成を目指しています。



〔中学校主免専攻〕

定員35人

児童期から青年期にかけての人の発達過程はたいへん多感な時期にあたり、その人の将来に大きな影響を与えます。

本専攻は、こうした発達過程を幅広い視野を持って見通す能力と、9専修（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語）から1教科を専修として高い専門性を併せ持った教員を養成します。

〈研究室紹介〉

理科教育 西田 伸

教育学部でイルカ・クジラの研究というと驚かれるかもしれませんが。当研究室では、地域の野生生物を対象に、DNA解析による種や集団の「歴史」の解明を目指しています。宮崎県内外で座礁したイルカ・クジラ類の調査・研究もその一つです。研究活動を通して、地域を知るとともに、「ものごと」を深めることの大切さや楽しみ、そこへのアプローチの仕方を知ることで、「学び」を指導する教員に求められる、高い専門性と探求力を養います。

〈研究室紹介〉

音楽科教育 菅 裕

「音楽が苦手」「音楽はよくわからない」という大人はたくさんいます。「音楽が上手だったりよくわかったりする人は特別な人だ」という考え方がその背後にあるように思います。しかし幼稚園くらいまでの子どもたちは自然に歌を口ずさんだり、身の回りにある楽器やおもちゃを使って即興の「セッション」を始めたりします。私たちはもともと「音楽する」存在なのです。こうした子どもたちののびのびとした音楽表現をどうすれば延ばしていくことができるのか、これからの教育を担うみなさんにぜひ考えてほしいと思います。

教職実践基礎コース

定員10人

グローバル化や少子高齢化、情報化などを背景に、現代社会はめまぐるしい変化の中にあります。そのような社会を生き抜く力を次世代の子どもたちに身につけさせるため、学校教員に求められる資質・能力も多様化・高度化しています。本コースでは、小学校教員としての基本的な資質・能力とともに、今後の社会で必要とされる問題解決能力や批判的思考力、他者と協働する力などを兼ね備えた教育実践力の高い教員を養成します。

●アドミッションポリシー

本コースでは、次のような人を求めています。

1. 幼稚園・小学校・中学校・小中一貫校における教育に対して熱意をもって取り組み、教科全般に関わる基礎能力、また、得意とする分野の学力や技能を有し、これらを教育実践に活用しようとする教職への意欲を持っている人
2. 現代の教育課題に対応するために、幅広い学問や文化を意欲的に学び、広い視野を身につけ、それを幼児教育・初等教育・中学校教育・小中一貫教育に生かす思考力・表現力を持っている人
3. 学び続ける喜びを幼児・児童・生徒と共有したいと考えている人
4. 宮崎県をはじめとする、地域に根ざす学校づくりの有力な一員となる協調性を持っている人

●卒業後の主な進路

小学校教諭、中学校教諭、大学院進学他



発達支援教育コース

〔子ども理解専攻〕

定員10人

本専攻では、幼児期から児童思春期にわたる子どもの心理、発達過程を見通す深い見識と理解力、教員としての使命感、責任感、教育的愛情を身につけた教員を養成します。さらに、心理学の理論と知識を学び、科学的・実証的に問題を解決していく思考力と実践力を身につけることを目指します。最新の心理学の知識と技術を活用して学校教育における子どもの心の健康、主体的に学ぶ授業づくり、子どもと家族の抱える問題を改善する力を養います。

●アドミッションポリシー

本専攻では、次のような人を求めています。

1. 幼児期から児童思春期の子どもの教育に対する意欲にあふれ、教職に必要なたしかな知識・技能について研鑽し続けることができる人
2. 目標に向けて強い意志と行動を貫くことができる思考力・主体性及び児童・生徒への適確な指導に資する表現力を磨き続けることができる人
3. 学校現場で子ども・保護者と信頼関係を築き、同僚と協力して問題に取り組んでいける対人関係能力を身に付ける努力を怠らない人

●卒業後の主な進路

小学校教諭、幼稚園教諭、認定こども園職員、大学院進学、県職員、市町村職員他



発達支援教育コース

〔特別支援教育専攻〕

定員10人

知的障害、肢体不自由、病弱、重複障害、発達障害等の児童・生徒が抱えている課題や困難に対する指導や支援をするために必要な知識や技能などの専門性を身につける学修を通じて、障害のある児童・生徒の心身の発達を促し、将来の自立や社会参加を実現することのできる特別支援学校の教員を養成します。

●アドミッションポリシー

本専攻では、次のような人を求めています。

1. 特別支援教育に対して意欲を持って取り組み、特別支援教育に関する学修に十分対応できる基礎学力や基礎技能を有している人
2. 目標達成に向けて強い意志と行動を貫くことができる思考力・表現力、愛情豊かに他者を思いやることができる協調性を有している人
3. 学修を通して獲得した知識・技能・行動力を教育現場に還元するための粘り強く創意工夫する力や向上心を有している人

●卒業後の主な進路

特別支援学校教諭、小学校教諭、大学院進学



教育学部ディプロマポリシー

ディプロマ・ポリシー				
大項目	大項目の説明	中項目	中項目の説明	
人間性・社会性・国際性	社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。	使命感・倫理観	教員としての使命感や倫理観を持って教育活動に関与できる。	
		チームワーク	将来、同僚職員等の様々な人と協調・協働して教育課題を解決するための基礎となる「他者との協調・協働」ができる。	
		個と多様性の尊重	個と多様性を尊重し、教員に必要な教育的愛情を持って児童・生徒等に接することができる。	
主体的に学ぶ力	自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。	主体的に学ぶ力	自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。	
コミュニケーション能力	相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。	言語リテラシー	日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。	
		児童・生徒理解	学校教育の基礎的諸理論に基づき、児童・生徒等の実態を把握することができる。	
		生徒指導・学級経営	児童・生徒等の実態に即した生徒指導及び学級経営に取り組むことができる。	
課題発見・解決力	課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。	情報リテラシー	情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、その結果を効果的に活用することができる。	
		課題解決力	課題を発見し、情報や知識を多面的、論理的に分析して、その課題を解決する方策をとることができる。	
		総合的な教育実践力	自他の教育実践を省察することで、自己の課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践に取り組むことができる。	
知識・技能	学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。	文化・社会・自然・地域の理解	人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。	
		専門知識・理解・技能	教育の基礎理論に関する知識	学校教育の基礎的諸理論に基づき、学校現場で生じているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる。
			教科等の内容に関する知識・技能	各教科等の内容に関する知識及び技能を修得し、それを教育実践に活用することができる。
			教科等の指導法に関する知識・実践力	教育課程や指導法に関する知識及び技能を児童・生徒等の実態に応じた授業計画、教材・教具の工夫に活用することができる。

アドミッションポリシー、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの詳細については、ホームページにてご確認ください。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/edu/faculty/policy.html>



教育学部では、教育に対する強い使命感と教員としての基礎的資質・能力を確実にそなえ、発達段階を見通した広い視野から初等教育、中学校教育、特別支援教育を実践できる人材を養成します。
したがって、本学部の各コース・専攻ではそれぞれ以下のような能力を、卒業要件としています。

小中一貫教育コース

大項目	大項目の説明	中項目	中項目の説明	
人間性・社会性・国際性	社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。	使命感・倫理観	小学校・中学校・小中一貫校の教員としての使命感や倫理観を持って教育活動に関与できる。	
		チームワーク	将来、同僚職員等の様々な人と協調・協働して教育課題を解決するため基礎となる「他者との協調・協働」ができる。	
		個と多様性の尊重	個と多様性を尊重し、小学校・中学校・小中一貫校の教員に必要な教育的愛情を持って児童・生徒に接することができる。	
主体的に学ぶ力	自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。	主体的に学ぶ力	自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。	
コミュニケーション能力	相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。	言語リテラシー	日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。	
		児童・生徒理解	学校教育の基礎的諸理論に基づき、児童・生徒の実態を把握することができる。	
		生徒指導・学級経営	児童・生徒の実態に即した生徒指導及び学級経営に取り組むことができる。	
課題発見・解決力	課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。	情報リテラシー	情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、その結果を効果的に活用することができる。	
		課題解決力	課題を発見し、情報や知識を多面的、論理的に分析して、その課題を解決する方策をとることができる。	
		総合的な教育実践力	自他の教育実践を省察して、自己の課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践に取り組むことができる。	
知識・技能	学士課程教育を通じて、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能(実践力)を活用できる。	文化・社会・自然・地域の理解	人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。	
		専門知識・理解・技能	教育の基礎理論に関する知識	学校教育の基礎的諸理論に基づき、学校現場で生じているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる。
			教科等の内容に関する知識・技能	各教科等の内容に関する知識及び技能を修得し、それを教育実践に活用することができる。
			教科等の指導法に関する知識・実践力	小学校・中学校・小中一貫校の教育課程や指導法に関する知識及び技能を児童生徒の実態に応じた授業計画、教材・教具の工夫に活用することができる。

教職実践基礎コース

大項目	大項目の説明	中項目	中項目の説明	
人間性・社会性・国際性	社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。	使命感・倫理観	学校教育制度の社会的役割を理解し、学校教員としての使命感や倫理観を持って教育活動に関与できるとともに、社会の一員として適切に行動できる。	
		チームワーク	将来、同僚職員等の様々な人と協調・協働して教育課題を解決するため基礎となる「他者との協調・協働」ができる。	
		個と多様性の尊重	個と多様性を尊重し、学校教員に必要な教育的愛情を持って児童・生徒に接することができる。	
主体的に学ぶ力	自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。	主体的に学ぶ力	自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。	
コミュニケーション能力	相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。	言語リテラシー	日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。	
		児童・生徒理解	学校教育の基礎的諸理論に基づき、児童・生徒の実態を把握することができる。	
		生徒指導・学級経営	教育方法及び学習理論、学校・学級経営等に関する専門的知識・技能に基づき、生徒指導及び学級経営に取り組むことができる。	
課題発見・解決力	課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。	情報リテラシー	情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、その結果を効果的に活用することができる。	
		課題解決力	課題を発見し、情報や知識を多面的、論理的に分析して、その課題を解決する方策をとることができる。	
		総合的な教育実践力	授業実践の基礎となる教育方法、学習方法、教育課程編成の原理や歴史的遺産を踏まえて自他の教育実践を省察し、理論と結びつけながら教育実践に取り組むことができる。	
知識・技能	学士課程教育を通じて、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能(実践力)を活用できる。	文化・社会・自然・地域の理解	人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。	
		専門知識・理解・技能	教育の基礎理論に関する知識	学校教育の基礎的諸理論に基づき、学校教育の成り立ちや現代の学校が直面しているさまざまな教育課題を明確に理解し、適切な対応を考えることができる。
			教科等の内容に関する知識・技能	各教科等の内容に関する知識及び技能を修得し、それを教育実践に活用することができる。
			教科等の指導法に関する知識・実践力	教育課程・学習開発、指導法に関する知識及び技能を、一人一人の幼児・児童・生徒の成長や個性に応じた授業計画、教材・教具の工夫に活用することができる。

発達支援教育コース(子ども理解専攻)

大項目	大項目の説明	中項目	中項目の説明	
人間性・社会性・国際性	社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行い、社会の発展のために積極的に関与できる。	使命感・倫理観	小学校、幼稚園・認定こども園の教員としての使命感や倫理観を持って教育活動に関与できる。	
		チームワーク	将来、同僚職員等の様々な人と協調・協働して教育課題を解決するため基礎となる「他者との協調・協働」ができる。	
		個と多様性の尊重	個と多様性を尊重し、小学校、幼稚園・認定こども園の教員に必要な教育的愛情を持って幼児・児童に接することができる。	
主体的に学ぶ力	自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。	主体的に学ぶ力	自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。	
コミュニケーション能力	相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。	言語リテラシー	日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。	
		児童・生徒理解	学校教育の基礎的諸理論に基づき、心理・行動的問題を示す幼児・児童とのコミュニケーションを図り、幼児・児童の実態を理解することができる。	
		生徒指導・学級経営	幼児・児童のメンタルヘルスの状態に配慮して、問題の予防・対処に必要な生徒指導、教育相談及び学級経営に取り組むことができる。	
課題発見・解決力	課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。	情報リテラシー	情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、その結果を効果的に活用することができる。	
		課題解決力	課題を発見し、情報や知識を多面的、論理的に分析して、その課題を解決する方策をとることができる。	
		総合的な教育実践力	自他の教育実践を省察して、自己の課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践に取り組むことができる。	
知識・技能	学士課程教育を通じて、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能(実践力)を活用できる。	文化・社会・自然・地域の理解	人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。	
		専門知識・理解・技能	教育の基礎理論に関する知識	学校教育の基礎的諸理論に基づき、学校現場で生じているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる。
			教科等の内容に関する知識・技能	小学校の各教科等の内容及び幼稚園・認定こども園の保育内容に関する知識及び技能を修得し、それを教育実践に活用することができる。
			教科等の指導法に関する知識・実践力	幼児児童の成長やメンタルヘルスの状態に配慮しながら、小学校・幼稚園・認定こども園の教育課程や指導法に関する知識及び技能を授業計画、教材・教具の工夫に活用することができる。

発達支援教育コース(特別支援教育専攻)

大項目	大項目の説明	中項目	中項目の説明	
人 間 性 ・ 社 会 性 ・ 国際性	社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。	使命感・倫理観	特別支援教育に携わる教員としての使命感や倫理観を持って教育活動に関与できる。	
		チームワーク	将来、同僚職員等の様々な人と協調・協働して教育課題を解決するため基礎となる「他者との協調・協働」ができる。	
		個と多様性の尊重	個と多様性を尊重し、特別支援教育に携わる教員に必要な教育的愛情を持って子どもに接することができる。	
主体的に学ぶ力	自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。	主体的に学ぶ力	自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。	
コミュニケーション能力	相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。	言語リテラシー	日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。	
		児童・生徒理解	知的障害、肢体不自由、病弱、重複障害、発達障害等の障害特性を理解し、特別な教育的支援を必要とする子どもの実態を把握することができる。	
		生徒指導・学級経営	特別な教育的支援を必要とする子どもの実態に即した生徒指導及び学級経営に取り組むことができる。	
課題発見・解決力	課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。	情報リテラシー	情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、その結果を効果的に活用することができる。	
		課題解決力	課題を発見し、情報や知識を多面的、論理的に分析して、その課題を解決する方策をとることができる。	
		総合的な教育実践力	特別支援学校や小学校における自他の教育実践を省察することで、自己の学習課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践に取り組むことができる。	
知識・技能	学士課程教育を通じて、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能(実践力)を活用できる。	文化・社会・自然・地域の理解	人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。	
		専門知識・理解・技能	教育の基礎理論に関する知識	学校教育及び特別支援教育の基礎的諸理論に基づき、知的障害、肢体不自由、病弱、重複障害、発達障害等の子どもが抱えているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる。
			教科等の内容に関する知識・技能	各教科等の内容に関する知識及び技能を修得し、それを教育実践に活用することができる。
			教科等の指導法に関する知識・実践力	特別支援学校の教育課程や知的障害、肢体不自由、病弱、重複障害、発達障害等に対する指導法に関する知識及び技能を一人ひとりの子どもの発達や障害特性に応じた授業計画、教材・教具の工夫に活用することができる。

留学体験記

教育学部 学校教育課程
小中一貫教育コース
小学校主免専攻 英語専修

塚田 裕弥

留学先：Purdue University Fort Wayne [アメリカ]
留学期間：2019年8月－2020年5月

私はアメリカのインディアナ州・フォートウェイン市にある総合大学、パデュー大学・フォートウェイン校で10ヶ月間の交換留学を経験しました。フォートウェイン市は「程よく都会」と言われている都市で、インディアナ州で2番目に大きい市になります。私はこの大学の教育学部で主に小学校教育や言語学等の授業を履修していました。

私が留学を意識し始めたのは大学2年生の後期からで、当時はただ「留学してもっと英語力をあげたい」と言う単純な理由でした。しかし、それからの大学生活や教育実習を経験していく中で、将来教員になる身として自分に対する課題が明確になってきました。それを学生のうちに出来るだけ学び、解決したいという思いで交換留学を決意しました。3校ほど選択肢があったのですが、教育学部で専門的に学びたかった為、パデュー大学を選択しました。

交換留学は期間が限られている為、「学びを最大化する」ということを意識していました。渡米する前に、「トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム」という文部科学省が主催する奨学金制度の11期で多様な人材コースの奨学生として採用を頂きました。また、パデュー大学の教授と事前に連絡を取り、現地での教育実習の機会も確保しました。これらに加え、授業や教育実習のインプットだけでなくアウトプットの場として、教師ボランティアの機会も確保してから渡米しました。

渡米してからの生活は、困難の連続でした。非常に多い課題の量、慣れない英語だけの生活やディスカッションなど、日常はストレスになるものばかりで溢れていました。渡米前に自信をつけていたはずの英語力も、周りの留学生やネイティブ達に圧倒され萎縮してしまい、最初は本当に辛かったです。課題に追われてなかなか眠れない日も多くありました。しかし、私はルームメイトに恵まれ、みんなで一緒にリビングで課題をしたり、夕食を食べたり、長期休みの期間には一緒にアメリカ国内

旅行をしたりと、ストレスを最小限に抑えながら、多くあった困難も楽しく乗り越えることができました。

留学全体を通して、英語や教育、言語学の知識以外にも多くの学びを得ることができました。一番大きかったものは、「グローバル化」というものを、身をもって経験できたことです。私はそれまで、語学留学でしか海外経験がなかったため、学校教育や社会全体のキーワードになっているこの言葉を客観視しすぎていました。実際に生まれ育った日本を離れ、客観的な立場から日本を見ること、アメリカに限らず海外の優秀な学生たちと交流することを通して、今までたいしたことではないと思っていたこの「グローバル化」に、向き合うことができたと思います。結果的に、この経験は私の将来の夢を大きく変えるものになりました。留学は自分の知らない多くのものに会わせてくれる素晴らしい機会です。このグローバル経験を生かして、これからの日本社会に貢献できる人材になりたいと強く思います。



ルームメイトの家族とともに(右から二人目が本人)

教育学部 学校教育課程
小中一貫教育コース
中学校主免専攻 英語専修

犬塚 小織

留学先：Indiana University of Pennsylvania [アメリカ]
留学期間：2019年5月－2019年12月

私はアメリカ合衆国、ペンシルバニア州西部にある州立大学に約7か月の語学留学をいたしました。留学に挑戦した理由は、前々から海外に対して大変憧れがあったからです。海外に行くということに対しての強い憧れを持っていたので、留学の形態としては語学留学であっても、ワーキングホリデーやボランティアであっても構いませんでした。しかし、自分の海外経験や自分の語学力を考慮して、語学留学を選択しました。

私が留学を経験して一番自分自身が成長したと考える部分は、「様々なことに対する価値観の捉え方」が柔軟になったことです。留学先の特徴として、私は大学付属の語学学校に通っていたために、勿論、クラスメートは英語ネイティブの人ではありません。様々な国から、異なった文化を持つ者同士が集まります。ここで私は大きなカルチャーショックをたくさん受けました。授業に対する考え方や、グループワークの取り組み方など、思い通りにいかないことも多々あり、留学期間中の初めの方は、私にとってこれらの経験がストレスとなることも多かったです。時には、相手に対する自分の理解が乏しく、相手のことを思いやりがない、怠惰であると決めつけてしまったときがありましたが、経験から学んだこととしては、やはりこのような問題は「相手に自分の思いを伝える」とことでしか解決しないということでした。言葉もなしに自分の気持ちを汲み取ってもらおうとすること自体が自分の過ちでした。このような経験をたくさん経て、次第に自分とは異なる価値観を認められるようになりました。お互いに認識や価値観が異なっている、それは当たり前のことであり、お互いに折り合いの地点を探っていくことで、自分自身のストレスも軽減しましたし、相手についてもっと知りたい、自分をもっと知ってほしいと思

うようになりました。また、留学先で自分らしく振舞うことができるようになりました。

加えて、私が留学を通して感じたことは「環境の重要性」です。留学期間中は日本にいたころとは比べ物にならないくらい課題が出ました。日本に帰ってきた現在、よくあんなにもこなしていたなと思う部分もありますが、現地にいるときは、勉強に取り組むための環境が整っており、周囲に勉強に真摯に取り組む人たちが多かったのも、自分だけ大変なのではなく、みんな頑張っていると常日頃感じていて、毎日深夜2時まで勉強していてもつらくはありませんでした。この経験によって、帰国した今、周囲の環境づくりには気を遣っています。

私は留学で得られた学びが多く、自分自身が成長できたと感じています。この経験を今後に生かせるように、自分のこれからの活動がより大事になってくると考えています。



Thanksgiving Dinner with My Friends
(前列左から二人目が本人)

教育学研究科 Graduate School of Education

教職実践開発専攻 Professional Teacher Development Program (教職大学院)

学び続ける教師に応える新たなしくみ

理念・目的

教育学研究科教職実践開発専攻は、学校教育に関する理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる教職を担うための深い学識及び卓越した実践力・応用力を培うことを理念とする。

教職実践開発専攻は、学部における専門教育又は教職経験の基礎の上に、確かな教育観と幅広い視野を持ち、教職としての高度の実践力・応用力を備えた、地域に根ざす学校づくりの有力な一員となり得る新人教員及び指導的役割を果たし得る教員の養成を目的とする。

教職実践開発専攻

教職実践高度化コース

教育行政・学校経営分野
(管理職養成を含む)
生徒指導・教育相談分野
教育課程・授業研究分野

教科領域指導力高度化コース

言語教育系領域
理数教育系領域
芸術教育系領域
社会認識教育系領域
スポーツ/生活科学教育系領域

特別支援教育コース

教職実践開発専攻(専門職学位課程)〔教職大学院〕 アドミッション・ポリシー

本専攻では、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を持つ、実践的な指導力・展開力を備えた新人教員や地域や学校において指導的役割を果たし得る教員を目指している次のような人材を求めています。

- 初等教育・中等教育または特別支援教育に関する基礎的・基本的資質を身につけ、教職に対する強い意欲を持つ人
- 教育現場の諸問題に対して深い関心を持ち、同僚や地域と連携して問題解決を行う熱意を持つ人
- 自らの得意分野を生かし、より高度の実践的指導力・展開力の修得を目指している人
- 教育者としての使命感を持ち、自ら学び続ける教師として、将来、学校や地域において指導的な役割を果たそうとする高い意識を持つ人



教職実践開発専攻(専門職学位課程)〔教職大学院〕 Professional Teacher Development Program

すべての教科
授業の基礎とな
る高度な実践的
思考力の形成

教科領域指導力高度化コース

生徒指導と
教育相談
管理職養成

教職実践高度化コース

教育課程と
授業研究
教育行政と
学校経営

特別支援教育
を担う高度の
専門性

特別支援教育コース

教職大学院では、ディスカッション、ディベート、事例研究、フィールドワーク、ロールプレイング、授業観察及び模擬授業などの様々なアクティブラーニングの手法を取り入れた授業が展開されます。その中で、経験年数も校種も教科も異なる現職教員学生とストレート学生が協力して主体的・対話的に学習していきます。こうした学びを通じて、高い教育的見識を獲得すると同時に、同僚とともにチームとして高め合う力を培っていくのです。学校現場での豊富な指導実績を持つ実務家教員と多様な専門領域をバックグラウンドに持つ研究者教員がみなさんの学びをサポートします。宮崎大学教職大学院は、まさにチーム一丸となって明日の教育の創造を目指しています。

— 修了生課題研究題目＜一部＞ —

- | |
|--|
| ○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を視野に入れた学校経営計画
～対象としての宮崎県A町～ |
| ○ICT を活用したフローチャートの作図とプログラミング教材の動作確認を往還させた課題解決学習による効果 |
| ○高等学校外国語科における観点別評価を背景とした学習評価の妥当性
～現状分析と言語評価リテラシー更新に向けての提案～ |
| ○知的障害特別支援学校におけるキャリア教育に関する課題と実践 |
| ○幼小連携における教師の相互理解を促すプログラム開発 |
| ○話し合いの充実を図る学級会事前指導の研究 ー議題決定や提案理由の設定に焦点を当ててー |
| ○中学校数学科における非認知能力の育成に関する研究 ー数学的コミュニケーションを通してー |
| ○小学校国語科における「主体的に学習に取り組む態度」の評価研究
ーゲーミフィケーション理論を活用した授業実践を通してー |
| ○小学校高学年児童における学級適応感向上への試み ークラスワイド PBIS に基づいてー |



附属施設

附属教育協働開発センター

Center for Collaboration and Development in Educational Practice and Management

附属教育協働開発センターは、宮崎県内の学校や教育委員会、地域社会と連携を図り、実践的指導力を持つ教員の養成及び現職教員の研修等に関するプログラム開発や教育研究の推進、学校教育における教育実践に関する研究を総合的に行うことを通して、学部、大学院及び地域社会における教育の発展充実に寄与することを目指しています。

教師教育部門と授業研究部門の2部門に整理し、令和4年度は、紀要の発刊と宮崎県教育庁派遣研究生等の受入れに加えて、宮崎県教育研修センターとの協働、町村教委との連携事業や学校を単位とした授業研究などに取り組んでいます。



附属幼稚園

An Affiliated Kindergarten

附属幼稚園は、昭和42年に教育学部校舎の一部を園舎として開設され、平成5年に現在の園舎が完成し、平成29年度には創立50周年を迎えた、歴史ある幼稚園です。

「生き生きと活動できる子どもを育てる」という教育目標のもと、広い園庭や大学所有のビオトープなど豊かな自然環境の中で、自発的な活動である「好きな遊び」を尊重した活動を展開しています。

身近な人とのあたたかいかわり合いを大切に遊びを通して、幼小中一貫した資質能力の基礎や学びに向かう力等を育みます。また、コミュニケーションスキル活動を行うことで、人との心地よい関わり方を身に付けたり、年長児期には集団活動や交流活動で小学校進学を意識したりすることができるような教育に取り組んでいます。さらに、PTA 活動も伝統的に充実しており、親子で楽しく心豊かになる幼稚園づくりをめざしています。



附属小学校

An Affiliated Elementary School

附属小学校は、明治26年に宮崎県尋常師範学校附属小学校として設立され、以来、120年以上の歴史を刻む学校です。

「ともだちいっぱい あせいっぱい まなびいっぱい」を教育目標として掲げ、その実現のために、保護者の理解・協力のもと、子どもと教師が一体となって様々な教育活動に真剣に取り組んでいます。特色ある教育活動として「いとし子命の集い」、研究推進校としての活動に公開授業研究会や公開研究会などがあります。PTA 活動も伝統的に盛んであり、「わんぱくフェスタ」や「PTCA 活動」などの楽しい行事もあります。

学ぶ楽しさや分かる・できる喜びを実感できる毎日になるよう、また他を思いやる豊かな心が育つよう充実した教育活動を展開しています。



附属中学校

An Affiliated Junior High School

附属中学校は、昭和22年に宮崎師範学校の附属中学校として開設された歴史と伝統のある学校で、これまでに12,500人以上の方々が、この学舎を卒業され、県内はもとより国内外の各界、各方面で活躍されています。

「真理を探究し、勤労を愛する、気品のある生徒の育成」を教育目標に掲げ、特色ある教育活動を保護者の理解・協力のもと展開しています。具体的には、時事への関心を高め、SDGsの視点を取り入れながら自分自身の見解を深めるNIE教育活動、人権教育の一環として、生徒、保護者、教師、カウンセラーが一堂に会するPTCC討論会、キャリア教育を基盤にした総合的な学習の時間では、「君たちは宮崎のためにどう生きるか」をテーマにした、新たな仕事を創造する探究活動、学年を超えた縦割りの集団で活動する体育大会、橋祭、清掃活動等々があります。

本校の使命である教育実習校としての教育の充実を図るとともに、研究推進校として、教科や総合的な学習の時間の公開研究会、授業研究会を実施し、地域に貢献できる学校をめざし、魅力ある教育活動を展開しています。



特別支援学級

Self-Contained Classrooms for Students with Intellectual Disabilities

附属小学校と附属中学校には、特別支援学級が設置されています。特別支援学級では「自立と社会参加」という大きなねらいに向けて、各教科等の学習をはじめ、各教科等を合わせた指導、校外学習なども取り入れながら特別の教育課程を編成して教育活動を展開しています。交流及び共同学習も計画的に実施し、特別支援学級の子とも通常の学級の子ともが互いにかかわり合い、学び合いながら学習する姿も見られます。また、通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある子どもへの支援についても、学級担任と連携を取りながら実践しています。



宮崎大学までの交通機関

(JR南宮崎駅近く) 宮交シティバスセンター	宮交バス 「宮崎大学・大学病院行」に乗車	約25分
JR清武駅 (徒歩2分) JR清武駅前バス停 (徒歩5分) 清武総合支所前バス停	宮交バス 「宮崎大学・大学病院行」に乗車	約15分
宮崎空港	タクシー 宮崎大学まで約8km	約15分
宮崎港 宮交バス 「宮交シティ行」	約30分 宮交バス 「宮崎大学・大学病院行」に乗車	約25分
宮崎自動車道	宮崎インターチェンジから	約10分
東九州自動車道	清武インターチェンジから	約10分

施設位置図

- ①宮崎大学〔木花キャンパス〕
- ②宮崎大学医学部〔清武キャンパス〕
- ③附属小学校・附属中学校
- ④附属幼稚園

①宮崎大学〔木花キャンパス〕



宮崎大学

教育学部・教育学研究科

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 TEL0985-58-2889・FAX0985-58-2883

附属教育協働開発センター

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 TEL0985-58-5287・FAX0985-58-5287

附属小学校

〒880-0026 宮崎市花殿町7番49号 TEL0985-24-6706・FAX0985-24-3176

附属中学校

〒880-0026 宮崎市花殿町7番67号 TEL0985-25-1122・FAX0985-25-1123

附属幼稚園

〒880-0031 宮崎市船塚1丁目1番地 TEL0985-24-6707・FAX0985-22-4997

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/edu/>